

# 16 専門 家庭

<目次>

1 「指導と評価の年間計画及び評価規準の作成の手引き」

P 1～2

2 「指導と評価の年間計画」

○生活産業基礎

P 3

3 「单元ごとの指導と評価の計画」

○生活産業基礎

P 4～6

○科目の目標

○科目の評価の観点及びその趣旨

○内容のまとめりごと

□目標

□評価規準

○单元ごと

□目標

□評価規準

□各授業時間ごとの主な内容

□授業指導案例

## I 「指導と評価の年間計画」及び「評価規準と単元計画」の作成の手引き

### 1 「指導と評価の年間計画」について

これは、次の2の「評価規準と単元計画」の全単元について、その概要を記述したものである。生徒の学習活動に対するより適正な評価、及び生徒の学習の改善に生かされる評価（指導と評価の一体化）の実現を目指して作成する。これまで作られてきた指導計画は、多くの場合、学習内容（指導内容）を単に1年間の授業時間数に対して配分しただけに留まっていたが、この「指導と評価の年間計画」では各授業ごとの学習活動のポイント、観点別の評価のポイント、評価方法、評価規準も含めて記述する。

### 2 「評価規準と単元計画」について

学習指導要領に基づく「評価規準と単元計画」は、言い換えれば、評価規準を盛り込んだ「単元ごとの指導と評価の計画」である。次の内容構成で作成する。

○科目全体の「目標」「評価の観点の趣旨」を示す。

- ・科目全体の目標…学習指導要領に示す当該科目の目標
- ・科目全体の評価の観点及びその趣旨

…「評価規準の作成、評価方法等の工夫改善のための参考資料」参照

○内容のまとまりごとの「目標」「評価規準」…内容のまとまりごとに4観点別に示した目標、評価規準

- ・内容のまとまりごとの目標 …学習指導要領の「内容」の(1)(2) …の大項目ごとの目標を記す。
- ・内容のまとまりごとの評価規準…内容のまとまりごとに4観点別に示した評価規準を記す。「評価規準の作成、評価方法等の工夫改善のための参考資料」参照

※「内容のまとまり」とは、ほとんどの教科書の「章」に該当するものであるが、学習指導要領に示された内容に基づいており、使用する教科書等に基づく「章」とは必ずしも一致しない場合がある。

○単元ごとの「目標」「評価規準」を示す。

- ・単元ごとの目標 …実際の使用教科書等に基づいた授業の進度に沿って単元ごとに示した目標。学習指導要領の項目ごとのねらいを基に記載する。
- ・単元ごとの評価規準…単元ごとに4観点別に示した評価規準。「内容のまとまりごとの評価規準」を単元の内容に即して具体化したもの。

○各授業時間ごとの具体的評価規準と方法

- ・各授業ごとに単元ごとの評価規準に基づく具体的な評価規準とその方法を示したもの
- ・本時の目標…上記の「指導と評価の年間計画」及び科目全体の「目標」「評価の観点の趣旨」、内容のまとまりごとの「目標」「評価規準」を反映したものでなければならない。
- ・評価規準 …「目標」を具体化したものであり、目標が生徒の学習状況として実現された状況を具体的に想定して示す。
- ・評価方法 …評価方法については、各学校で各教科・科目の学習活動の特質、評価の観点や評価規準、評価の場面や生徒の発達の段階に応じて観察、生徒との対話、ノート、ワークシート、学習カード、作品、レポート、ペーパーテスト、質問紙、面接などの様々な評価方法の中から、その場面における生徒の学習状況を的確に評価できる方法を選択していく。

単元ごとの指導と評価の計画<例>

□単元名：○○○○

□単元の目標

○○○○○
-------

□各授業時間ごとの指導と評価の計画（例）

主な学習内容	ねらい	学習活動	時間	学習活動における具体の評価規準				評価方法等
				関心・意欲 ・態度	思考・判断 ・表現	技能	知識・理解	
・学習内容 の主な項目を記載								・評価の具体的な方法及び指導のポイントを記載

Ⅱ 指導と評価の年間計画(生活産業基礎) <例>

科目名：生活産業基礎 学科：〇〇科

岐阜県立 〇〇 高等学校

目 標 【学習指導要領】	衣食住、ヒューマンサービスなどに関する生活産業や関連する職業への関心を高め、必要な知識と技術を進んで習得し、活用する意欲と態度を育てる。				関心・意欲・態度	思考・判断・表現	技能	知識・理解
到達目標に向けての具体的な取り組み 【評価規準を念頭に置いた指導上の留意点】	衣食住、保育、家庭看護や介護などのヒューマンサービスに関わる生活産業が、消費者の多様なニーズにこたえて商品やサービスの提供を行うことによって、人々の生活を支え豊かにしていることを認識させるとともに、生活産業や関連する職業に必要な知識と技術を進んで習得し、職業人として活用しようとする意欲と態度を育てることを目標としている。							
月	単元名	使用教科書項目	時	主な学習活動(指導内容)と評価のポイント	評価方法			
4月	第1章 「生活産業基礎」 を学ぶに当たって	1 「生活産業基礎」を学ぶ目的	1	・生活産業基礎を学ぶ目的を理解している。	ワークシート	○		○
		2 「生活産業」とは	1	・自己課題解決学習としての意味を理解している。	ワークシート	○	○	
		3 「生活産業」で働く人にもとめられること	1	・地域の生活産業に従事する人々の資質・職業観について関心をもっている。	ワークシート	○		○
		4 「生活産業」のスペシャリストへの道	1	・生活産業に関わるスペシャリストに関心をもち、自己実現の過程について考えている。 ・職業を通して喜びや楽しみ、生きがいについて考える。	ワークシート	○	○	○
5・6月	第2章 社会の変化と生活産業	1 生活と産業とのかかわり	1	・生活を支える産業の意義や役割について理解を深めている。	ワークシート	○	○	○
		2 社会の変化とライフスタイルの変化	1	・生活と産業の関わりについて身近な生活の中から興味をもっている。	ワークシート		○	○
			1	・経済の発展に伴う家庭生活全般の変化について理解し、ライフスタイルとの関連について関心をもっている。	ワークシート		○	○
			1	・豊かさが生活に関する価値観の多様化をもたらし、ライフスタイルを多様化させている現状について理解している。	行動観察		○	○
			1	・これからの社会の変化に対応したライフスタイルについて興味をもち、生活に関する職業への関心を深めている。		○	○	○
			1	・女性の社会進出により家庭生活にも変化が見られ、課題があることに気づき、職業との両立について考えている。		○	○	○
7・8・9・10・11・12月	第3章 生活産業と職業	1 食生活関連分野の産業と職業	45	・消費者ニーズや消費行動に対応した商品開発、メニュー開発、調理の方式、販売やサービスの方法などについて関心をもっている。	調査記録 体験レポート	○	○	○
		食生活の変化と生活産業のかかわり		・食生活に関する資格・職業について興味・関心をもっている。	ワークシート	○	○	○
		食生活関連産業の職業と資格				○	○	○
		2 衣食生活関連分野の産業と職業		・アパレル産業やファッション小売産業について意義と役割を理解している。	行動観察	○	○	○
		衣食生活の変化と生活産業のかかわり		・衣食生活に関する資格・職業について興味・関心をもっている。	ワークシート	○	○	○
		衣食生活関連産業の職業と資格				○	○	○
3 住生活関連分野の産業と職業	・住居インテリアに関わる産業について意義と役割を理解している。	ワークシート	○	○	○			
住生活の変化と生活産業のかかわり	・住生活に関する資格・職業について興味・関心をもっている。	行動観察	○	○	○			
住生活関連産業の職業と資格			○	○	○			
4 ヒューマンサービス関連分野の産業と職業	・ヒューマンサービス関連分野に対する需要の高まりを理解させ意義と役割を考えている。	ワークシート	○	○	○			
社会の変化とヒューマンサービス	・ヒューマンサービスに関する資格・職業について興味・関心をもっている。	課題提出	○	○	○			
ヒューマンサービス関連産業の職業と資格								
1月	第4章 職業生活と自己実現	1 職業生活と生きがい	1	・職業の選択が将来のスペシャリストとしての自己実現につながることを理解し、職業に必要な資質や能力を理解している。	行動観察	○	○	○
			1	・職業資格の市議について理解している。	ワークシート	○	○	○
2・3月	2 将来の生活と学業		1	・男女共同参画社会における生き方には、家族の協力が必要であることについて理解している。		○	○	○
			1	・卒業生の活躍や体験談などについて理解を深めている。		○	○	○
			2	・社会人講師の講話		○	○	○
			1	・将来のスペシャリストを目指した学習プラン作成のための、進路計画の立案について知識・理解を深めている。	ワークシート	○	○	○
			1	・自己実現に合わせた専門科目の学習への興味・関心を深化し、主体的に学習する実践的態度を身に付けている。	行動観察	○	○	○
			2	・自己課題について考え、課題を明確にさせ、スペシャリストを目指して「高校生活の目標」を立てることができる。		○	○	○
合計時間数			70					

### Ⅲ 単元ごとの指導と評価の計画

□単元名 第2章 社会の変化と生活産業

(1) 生活と産業のかかわり (2) 社会の変化とライフスタイルの変化 (3) 産業構造の変化と生活産業の発展

□単元の目標

経済や科学技術等の発展に伴う産業構造の変化を理解させ、そのうえで、社会の変化に伴う人々の価値観やライフスタイルの多様化、人々のニーズにこたえた生活産業の発展について理解させ、人々の生活を支え、心の豊かさをも散らす生活産業の意義を認識させる。

□各授業時間ごとの指導と評価の計画

主な学習内容	ねらい	学習活動	時間	学習活動における具体的評価規準				評価方法等
				関心・意欲・態度	思考・判断・表現	技能	知識・理解	
第1 生活と産業のかかわり	私たちの生活を支えている産業が生活に密着したものであり、社会の状況や人々のニーズによって変化していることを知らせるとともに、その変化を的確にとらえる必要があることを理解させる。	・産業を分類し、私たちの生活と、どのように関わっているかを考える。	1				①産業が3つに分類されることを確認し、人々のニーズにより新しい産業が創出されていることを理解している。	・ワークシート ・行動観察 ・ペーパーテスト
			1	①生活と産業の関わりについて自分の生活と照らし合わせながら関心をもって取り組んでいる。	①生活産業が人々の生活の変化により、影響を受けやすいことを考えている。			・ワークシート ・行動観察
第2 社会の変化とライフスタイルの変化	経済の発展に伴う社会の変化と、それに伴うライフスタイルの変化を知らせ、豊かになった人々の多様な価値観やニーズの変化を理解させる。	社会の変化とライフスタイルの変化について年表をつくる。	1				②終戦から今日までの社会の変化と経済の変化について理解している。	・ワークシート ・行動観察 ・ペーパーテスト
	少子高齢化などの人々のライフスタイルの変化を知らせ、人々が産業に求めるニーズがどのように変化したかを理解させる。	少子化の原因と今後発展する産業を考える。 人々が産業に求めるものはどのように変化したかを考える。	1		②少子高齢化が進んでいる原因も考慮しながら、人々が産業に求めるものがどのように変化したかを考えている。			・ワークシート ・行動観察

	豊さが生活に関する価値観の多様化をもたらし、ライフスタイルを多様化させている現状に興味をもち、生活に関する職業への関心を深める。	豊かさが生活に関する価値観の多様化をもたらし、ライフスタイルを多様化させている現状について理解する。	1		③ これからのライフスタイルに必要なとされる生活産業のニーズについて考えている。			・ワークシート ・行動観察	
	女性の社会進出と男女共同参画社会により家庭生活にも変化が見られ、生活産業に直接結び付いていることを知らせるとともに、家庭生活を支える様々な生活産業が発展していることに気付かせる。	女性の社会進出により家庭生活にも変化が見られ、課題があることに気づき、職業との両立について考える。	1			① 家庭生活を支える様々な生活産業が発展している状況を調べることができる。		・ワークシート ・行動観察	
	科学技術の進展が生活産業に直接結び付いていることを知らせるとともに、科学技術に関する正確な知識を持ち、活用することの大切さを知らせる。	科学技術の進展が生活産業に影響を及ぼし、どのような商品となっているかを考える。さらに私たちの家庭生活への影響と課題を考える。	1	② 科学技術の進展により生み出されたものを知り、今後出てくる商品について関心をもっている。		② 科学技術の進展により、出てきた問題点や課題について班の意見をまとめ発表したりしている。		・ワークシート ・行動観察	
	国際社会の中で果たす日本の役割に気付かせる。	国際化が進むことで生活を豊かにしているものや、今後国際化によって現れる商品について考える。	1		④ 国際化により私たちの生活が豊かになっていることを考えている。		③ 環境などの問題についてもグローバルに考えることの必要性を理解している。	・ワークシート ・行動観察 ・ペーパーテスト	
第3 産業構造の変化と生活産業の発展	経済が発展することで産業構造が高度化し、消費の中心が情報やサービスに移っていることを理解させる。	サービス業就業者の割合が高いことを理解し、サービスに関連する生活産業の発展について考える。	1		⑤ サービス業に関連している生活産業が多く、今後どのような発展をするか考えている。		④ 現在の日本の産業の特徴とサービス業就業者の割合が高いことを理解している。	・ワークシート ・行動観察 ・ペーパーテスト	
	生活産業は家事労働の外部化や女性の社会進出とともに変化してきたことを理解させ、今後の変化について考えさせる。	生活産業と社会の変化の関わりを理解する。社会の変化に伴い、生活産業に対するニーズの変化を考える。	1		⑥ 社会の変化に伴う生活産業に対するニーズの変化を考えている。		⑤ 生活産業と社会の変化の関わりを理解している。	・ワークシート ・行動観察 ・ペーパーテスト	
総 時 間 数			10						

学指指導案

科目名	生活産業基礎			
単元名	第2章 社会の変化と生活産業			
本時の主題	第2 社会の変化とライフスタイルの変化 3 社会の変化とライフスタイルの変化			
指導観	このクラスは、授業に対する態度は良好で全体的におとなしい生徒が多い。しかし、1年生ということもあり、クラス内におけるコミュニケーションが低い生徒もみられる。今後社会に出て、生活産業の現場で働くことを考えると、クラスメートと様々なことを話し合ったり、発表する機会をもち、コミュニケーション能力の育成を図りたいと考えている。ここでは少子高齢化が進むことで多くの課題も出てくるが、人々のニーズに応えようとする産業が活発化する現実を踏まえ、常に社会の変化と産業のつながりを意識した生活を送って欲しいと考えている。			
本時の目標	近年の社会の変化と産業構造の変化を概観させ、経済の発展に伴って、生産や消費の中心が「もの」から情報やサービスに移っていく経済のソフト化、サービス化について具体的な事例を通して理解させる。【思考・判断・表現】			
過程	指導内容	生徒の学習活動	評価について 教師の指導	
導入 5分	本時の目標確認	1 戦後の経済の発展とライフスタイルの変化について確認する。	・前時の学習内容について振り返り、本時の目標確認をする。 ・グラフの読み取りをさせ、分かることをまとめさせる。	
展 開 40分	少子化とライフスタイル	2 合計特殊出生率の意味を知り、年々少子化が進んでいることを理解する。 ○予想される生徒の反応 ・少子化傾向が続いていることをグラフから読み取り実感する。 ・少子化の現状と今後の人口の推移についても理解する。 3 少子化の問題点について、グループで話し合う。 ○予想される生徒の反応 ・人口が今後増えない。 ・経済に大きな影響をも散らす。 ・労働人口が減る。 4 高齢化のライフスタイルについてグループで話し合う。 ○予想される生徒の反応 ・寿命が延びて第二の人生が楽しめる。 ・介護が必要な人が増える。 ・時間がたくさんある。 ・元気なお年寄りもたくさんいる。 5 ライフスタイルの変化による人々のニーズの変化と産業の活性化について考え、発表する。 ○予想される生徒の反応 ・働く女性が増え、家事の代行や外食産業などが盛んになる。 ・高齢者が増えることで、シルバー産業と言われる高齢者を対しようとした産業が増える。	○評価規準 【思考・判断・表現】—② 少子高齢化が進んでいる原因を考慮しながら、人々が生活産業に求めるものがどのように変化したかを考え発表している。 ＜評価方法＞ ・ワークシート ・発表内容・発表態度 Aの例 ・外食産業、惣菜産業 ・紙おむつ、ベビーフード ・既製服、バリアフリー住宅 ・健康に関わるグッズ	・グループでの話し合いではKJ法を用いて活動が円滑に行われるように指示をする。 ・あらかじめ司会と発表者を決めておく。 ＜Bを実現するための指導＞ ・発表内容について、グループの仲間と確認するように促す。 ＜Cへの手だて＞ ・グループの仲間の意見をよく聞き、発表における自分の役割を確認させる。 ・発表については時間を決め、適切にまとめて発表するよう指示をする。 話し合いの時間 10分 発表時間 各班1分
まとめ 5分	本時のまとめ	少子高齢化が進んでいることを理解し、それに伴い、人々のニーズが変化してきていること、またニーズに応える産業の活性化についてまとめる。	人々のニーズに応えた生活産業の発展について理解させ、人々の生活を支え、心の豊かさをもたらす生活産業の意義を認識させる。 次回の予告	

□工夫している点

言語活動の充実を図るために、自分の考えを伝えあったり、他人の意見から自分の意見を発展させるようにグループワークや発表の機会を設定した。また、KJ法を用いることでグループにおける話し合いを円滑に進め、グループ内の考えを発言し、まとめて発表をするなどコミュニケーションにも配慮した。